

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 膵癌の術後再発を予測するモデルの構築

研究の目的

膵癌に対する外科手術は唯一治癒が望める治療ですが、術後再発率が高いことが課題です。そのため切除術に加えて補助療法（再発の危険性を減らすために行われる手術以外の治療のこと）を併用することが一般的です。近年、術前補助化学療法の有用性を示唆する報告が我が国より示されました。一方で、術前補助化学療法は、一般的に数週間以上の期間を要するため、その治療効果が乏しい場合には術前補助化学療法中に病勢が進行し切除機会を失う危険性があります。また、術前補助化学療法なくとも良好な長期成績が得られる患者さんも存在します。すなわち、術前補助化学療法の適応は厳格である必要がありますが、それを必要とする患者さんを適切に選択する方法が現時点ではありません。

仮に、術後再発の危険性を予測することができれば、真に術前補助化学療法が必要な患者さんを見出すことが可能になります。そして、手術後の成績向上への貢献が期待されます。同時に、術前補助化学療法を行わなくても再発しない患者さんにおいては、不要な化学療法を避けることで生活の質の向上が期待されます。以上より、膵癌の術後再発を予測する方法を開発することを目的とします。

研究実施期間： 2022年2月18日 ～ 2023年3月31日
(倫理委員会承認日)

対象となる方： 2007年から2018年の間に、当科において膵癌に対して手術をされた方を対象とします。

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

通常診療の範囲内で得られた既存の情報を解析します。新たに検査や治療を追加するものではありません。当院のカルテを利用し、病歴、年齢、性別、血液検査、画像検査、手術関連情報、術後経過についての情報を、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、機械学習の技術を用い収集したデータと術後再発の関連についての紐づけ（学習）を行い、術後再発を予測するモデルを開発します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科 脇屋太一 電話 0172-39-5079
--------------	---------------------------------------